

らい 来ぶらり 33

今は昔、本屋へ行っても欲しい本が自由に手に入らない時代がありました。漱石の「こころ」(岩波文庫)が発売されると聞くと、朝早くから並んだものでした。図書館もほとんど灰塵になっています。旧制高校の教科書は生徒たちが手分けして粗悪なガリ板原紙を切り、手で刷って作ります。紙も文房具屋ですぐ買えるのではなく、誰かのついでで新聞用紙を1巻横流しして貰いました。ノートだってわずかしか配給がないので、授業内容はなるべくその場で憶えるように努め、要点だけは1つの野を2行に使って小さい字で隅隅までぎっしりと書込みます。戦争中に出された米、英の名著の海賊版が数学、物理、化学の参考書になり、選択のゼミでもテキストはタイプ複写が簡単な英、独、仏語ばかりでした。

困ったのは大学入試の勉強です。大阪や神戸は東京よりも完全に焼き尽くされ、古本屋を探しても受験の参考書や問題集は全然見当りません。誰かが先輩などから手に入れてくると、クラス中で1人3日ずつ回覧します。もっと厳しいのは電力事情でした。夕方から夜中までは、電気がわずか5分点いて25分の暗黒の繰返しです。食べる物さえ不自由な時代ですから、ロウソクは貴重品で非常にしか使えません。夜中からやっと30分ごとの点灯、停電になります。冬でも暖房などありませんから、毛

受験地獄今昔物語

図書館長 高本進
(理学部教授)



布や布団を被って勉強し、電気が消えると机の上につ伏して寝、ふたたび電気が点いたら勉強を始めます。横になったら朝まで目が覚めないでしょう。停電時間を合計すれば結構睡眠時間はあるはずですが、こんな短い周期に人間のバイオリズムを合わせることは到底無理なので、みんな毎日睡眠不足のために、兎のような赤い目をしていました。

私が入試のために上京する日が来、神戸で超満員の汽車に窓から乗込みました。当時は身動きもできない車内で12時間もかかったのです。くたくたになって着いた知人の家では、半年ぶりで布団の上に横になって寝ました。その心地よさは一生忘れられません。試験日まで2、3日ありましたが、もう勉強などする気にはなれず、見知らぬ廃虚の東京をあちこち歩き回りました。地下鉄は渋谷―浅草間1本でしたが、代りに都電が縦横に走っていました。

入試も今とは少々違います。例えば外国語では英、独、仏の3種の和訳問題が配られてその中の2か国語を選んで解答します。和文欧訳はどれか1か国語に訳せばいいのです。合計3時間半があつという間に過ぎてしまいました。43年も前のことなのに、今でも問題を思い出せるのは、余程苦しんだからでしょう。

今も昔も変わらないのは受験地獄ですよね。

1991年春《先輩から新入生に贈る》 図書館利用法

残りの8割は図書館で



「僕は持っている知識の1割しか講義しないよ。質問されて、2割をやっとだすぐらいなんだ」と恩師がおっしゃった。入学直後に、学問に王道がないこと

を改めて教えられたのです。そこで、先生から聞き出した参考図書を中心に、資料を集めました。本から本、文献から文献の輪を広げておくことは、学問の前提です。良い資料を数多く使いこなせる能力が、レポートの価値と信頼度を決めます。教授は感想文を求めているのではないので、自分の意見を組み立てるにも論拠が必要になります。図書館は、そんな時のよきパートナーでした。もし、目当ての本が見付からなければ、カウンターで即相談。他大学の蔵書が確認できる。紹介状を作ってもらい、閲覧しに行ける。雑誌や紀要のコピーなら取り寄せることも可能です。

出会いは自分で作るもの。図書館は、恋人との待ち合わせに便利な場所ではありますが(ん!?)初めは夢中でアタックするのみ。知りたいと思う気持ちが大切です。

(平成3年 国文科卒 山田哲也)

贈る言葉



学習院大学図書館は開架式と閉架式を備えています。慣れるまではとまどいを覚えるかもしれませんが、困った時も含めて、ぜひ積極的に図書館員に尋ね

ることをお勧めします。図書館員は、大変優しく、我々利用者の強い味方となって下さいます。私も、初めて閉架式を利用した時、勝手がわからず、思いきって声をかけた記憶があります。その時の図書館員の懇切丁寧な説明が、強く印象に残っています。さらに、研究を深める為に、高価な専門書等が必要な時は、学生希望図書というシステムを活用するとよいでしょう。また、特別な大学図書館でのみ扱っている文献を必要とする時は、他大学図書館への紹介をして下さいます。

以上のように、本の利用のみではなく、あき時間を閲覧室で過ごすこともできます。

宝の持ち腐れとならないように、皆様一人一人が、積極的に利用し、研究を深めてゆかれますように。それによって、益々の図書館の充実、発展を心より希望します。

(平成3年 数学科卒 徳村泰子)

勉強と縁遠い人の利用法



新入生の皆さん、おめでとうございます。

さて、大学での4年間、ひいきめに見ても勉強をしたとは言い難い私が、もっともらしい図書館利用法をお話

しするというのはお恥かしい限りですので、勉強とは縁遠い人の利用法について3点ほど挙げてみることにしました。

①IFロビーの新聞：独り暮らしの人には特におすすめです。下宿先のしつこい新聞

勧誘を断って、ここで全紙読めますよ。

②天気の良い日の屋上：昼休み等に日光浴をするのに最適かと思えます。遠くは東京タワーまで見渡せます。

③図書館業務の学生アルバイト：時々募集が行われます。授業の合間にできるので食事代ぐらいの収入にもなり、面白いかもかもしれませんよ。

いかがでしょうか?でも、たまには本を借りないと罰が当たってしまいますね。

皆さんの大学生活が有意義なものとなりますようにお祈りしています。

(平成3年 法学科卒 阿部亮一)

学習院の校友会誌に『輔仁会雑誌』というものがある。『論語』の顔淵篇中の「友を以って仁を輔く」から選ばれ命名されたという「輔仁会」は、学習院の教職員・学生・生徒・児童から成る組織である。この会が『輔仁会雑誌』を創刊したのが、1890年（明治23年6月）であり、すでに一世紀を越え、学習院の特色ある文化を継承して今日に至っている。本院の校風を反映するとともに、その時代の社会思潮や文芸思潮の一端が伝えられてきている。

この雑誌が学外者の関心をそそるのも文芸史上、一時代を成した「白樺派」の同人たちを育てた独自の性格をもっているためかも知れない。時代が下って昭和になると、平岡公威氏（三島由紀夫）や藤島泰輔氏等の誌上での活躍が目立つ。

創刊以来、その内容にも変遷が見られるが、いつの時代においても児童・生徒・学生の作文・詩・エッセイ・小説等には、読む者の心をとらえるものがある。また、歴

代院長の教育方針や随想、先生方の随筆など、学習院の英知や情操がいたるところに輝やいているかのようである。

各界で活躍しているOBの座談会やインタビューの記事もまた楽しい。近年では作家の吉村昭氏とのインタビューやテレビ等で活躍中の安藤和津さんとプロテニススの佐藤直子さんの対談とか、能楽界の若きプリンスたち（金春安明氏、室生英照氏、観世清和氏、野村耕介氏）と佐藤喜久雄教授の座談会がある。また、都知事選で「時の人」磯村尚徳氏の「我ら同窓生」という記事も掲載されている。

ともあれ『輔仁会雑誌』は学習院の沿革や時代の

思潮を理解する上でも貴重な記録であり、特に永年にわたり官立校として歴史を刻んで来た学習院が私学に移行し、その転機に耐え精神的風土を守り続けて来た記録としても、一読する意義は大きい。図書館には『学習院輔仁会雑誌総目録』があり、執筆者名とともに題名等が付されており、利用の便に供している。（総務係 田村節子）

『輔仁会雑誌』
—この貴重なもの—

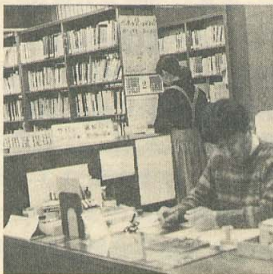


88万分の2万8千

図書館利用の第1歩

学習院大学には、資料を所蔵し学生の閲覧に供する施設が、大学図書館を含めて18箇所（一部閲覧不可の施設を含む）ある。

これら施設の全蔵書冊数は88万冊（1990年3月現在）にのぼり、そのうち大学図書館は29万冊を所蔵する。言い換えれば、全蔵書冊数の3割が大学図書館にある。また、高等科以上の全学生が等しく資料を利用できる施設でもある。



大学図書館の資料は、開架図書室に2万8千冊、閉架書庫に25万冊、参考図書室に1万冊が所蔵されている。しかし「開架」「閉架」といっても、何の意味だかよくわからない。

「閉架」とは「利用者は入れない」場所であり、閲覧希望の資料は目録を引き、カウンターに請求する。「開架」とは、利用者自身が資料を直接手に取って選び、閲覧できる場所である。「アサヒジャーナル」や「中央公論」等の雑誌もある。冊数は少ないが気軽に利用できるのが利点だ。図書館利用の第一歩として、開架図書室を使ってみよう。

（洋書係 入村和彦）

参考室あれこれ

めずらしく医学系の、しかもイタリア語の雑誌 *Rivista di Storia delle Scienze Mediche e Naturali* を探してほしいとの依頼を受ける。41巻(1950)に Belloni という人の論文があり入手したいとのこと。まず国内でと雑誌総目録をみるが、この巻を所蔵している図書館はない。念のために、医学部のある大学へ所蔵調査の依頼をする。東大、慶応、東北、九大 etc. 「残念ながら所蔵なし」の回答が次々に入ってくる。その中で筑波大から「所蔵していないが、*Index Medicus* をみると、確かに雑誌論文として載っている」との貴重なコメントを得た。実は依頼者から「参考文献としてあげてある文献の書名中の数値と論文中の引

用部分の数値が逆になっている。どちらが正しいか確認したい」とその動機の説明を受けていた。さっそくその index 誌 *Quarterly Cumulative Index Medicus* 1951年の Belloni のところをファックスで送ってもらう。依頼者は数値836と結論づけた様子。

単に雑誌論文を読みたいとの情報の提供だけで調査をすれば、国内になれば国外へとなり、時間もかかり、依頼者も断念しかねません。ちょっとした周辺の情報を提供することで道が開けました。

参考室にみえたなら、要領よく話そうなんて気張らずに声をかけて下さい。回答は1つでも、獲得手段は何通りもあり、それはあなたの言葉の中から生まれ、組み立てられ、もしかすると探す手伝いも成功するかも知れません。(参考係 甲斐静子)

お知らせ

平成3年度 図書館の開館時間と貸出冊数

開館時間			貸出冊数		
日付	月～金	土	日付	学部生	院生*
4/1～4/10	8:50～16:30	8:50～12:00	4/1～4/10	5冊	10冊
4/11～7/20	8:50～18:30	8:50～16:30	4/11～7/6	3冊	6冊
7/22～8/31	8:50～16:30	休館	7/8～9/14	5冊	10冊
9/2～9/14	8:50～16:30	8:50～12:00			
9/17～12/20	8:50～18:30	8:50～16:30	9/17～12/6	3冊	6冊
12/21～12/25	8:50～16:30	8:50～12:00	12/7～12/25	5冊	10冊
1/8～2/1	8:50～18:30	8:50～16:30	1/8～1/18	3冊	6冊
2/3～3/31	8:50～16:30	8:50～12:00	1/20～3/31	5冊	10冊

*論文貸出の4年生をふくむ

◎詳しくは図書館内の掲示等をご覧ください

編集後記

湾岸戦争は、ハイテク戦争でもあった。現代の図書館もハイテクで武装している。コンピューターを中核として、情報記録の高密度化や、通信技術の利用等においてそれらは使用される。しかし、ハイテクの背後には複雑

な変数がある。政治的・経済的・社会的要因である。その安定と成長が不可欠な要素になってくる。チャウシェスク政権崩壊後のルーマニアでは国立図書館が打撃を受けたと聞く。果して、イラクの図書館はどうなのだろうか？

来ぶらり No.33 1991年4月1日発行

発行責任者：高本 進 編集委員：広瀬淳子 鈴木宗一

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3986)0221